

第3学年国語科学習指導案

日 時：平成 26 年 11 月 12 日（水）

場 所：3 年 1 組教室

授業者：廣瀬 礼子

1. 単元名 物語の感想をまとめよう
教材名 『ちいちゃんのかげおくり』

2. 指導の立場

(1) 教材観

本教材は、「かげおくり」という遊びを取り上げながら、戦時下の家族の姿を描いた物語である。子どもたちにとっては、教科書で出会う初めての戦争を題材とした文学である。場面の移り変わりがはっきりと捉えやすい構成になっており、作品の中で情景や会話が生き生きと表現されていて、児童は、ちいちゃんに容易に感情移入しながら読み進めることができると考える。特に、二つの「かげおくり」の状況を比べながら読んだり、第五場面の役割を考えたりすることで、戦争の悲惨さを感じたり、平和の大切さや家族の大切さを考えたりするきっかけともなる作品である。

本教材を通して、場面の移り変わりに注意しながら、人物の行動や情景、会話などの表現をもとに読み取る力を身につけさせたい。また、場面を短くまとめたり、文を引用したりして感想をまとめることができるようにしていきたい。そうすることで、叙述をもとにした自分の読み取りに自信をもたせるとともに、感想を聞き合い、考え方や書き方の違いにも気付かせたい。

(2) 研究との関わり

【児童の実態】

- ・「きつつきの商売」「海をかつとばせ」の学習を通して、会話や行動を表す言葉に着目して登場人物の様子や気持ちを考えられるようになってきたが、言葉と言葉をつなげたり、場面を比較したりして考えることは十分ではない。
- ・一人読みで考えたことを発表しようとする意欲は高まっているが、仲間の意見を聞いて自分の読みを広げ、話し合いを深めることは難しい。
- ・戦争についての知識としては、絵本やアニメ、家の人から情報を得ている。27人の児童が戦争は人の命を奪ったり、建物を壊したりすると思っている。また、戦争が国同士の利権争いであると考えている児童が3人いる。

研究内容 1

- (1) 付けたい力を明確にし、単元を貫く言語活動を設定する。

付けたい力

- ・各場面の様子に気を付けながら、場面と場面を関係付けて読み取る力
- ・根拠を明確にして、引用や要約を取り入れながら、感想をまとめる力

単元を貫く言語活動の設定

- ・単元の出口に「一番心を打たれた場面を中心に、心を打たれた理由と一っしょに感想文を書く」活動を位置づける。そのために、毎時間の読み取りの最後に「～から、ちいちゃんの～（様子や気持ち）がわかる。なぜかという、～」と、本文を引用してまとめながら、ちいちゃんがおかれた状況について感想を書く。戦争でちいちゃんが失ったものについて、前の場面と比較しながら考え、平和についても、思いを強くすることができるようにする。

研究内容 2

- (1) 自分の考えを確かにもつための手立てを工夫する。

- ・着目する言葉を見付ける手がかりとして、「読み取りの視点」や「読み取りの技」を黒板に提示する。会話、行動描写、繰り返し、まわりの様子（情景描写）などの文章表現を視点として与えることで、「同じ言葉が繰り返されているから、強く思っている」などと考えられるようにしたい。
- ・四場面では、意識が遠のく中でも、たった一人でかげおくりをするちいちゃんの様子や気持ちを読みとるために、一場面のかげおくりと対比させ、ちいちゃんを取り巻く状況が大きく変化していることに気付かせたい。また、「青い空からふってきた」「体がすうっと透き通って」などの表現に着目させることで、戦争はとうとう、ちいちゃんの命まで奪ってしまったことに気付かせ、「前の場面では、家族を失ってしまった。四場面では～」とつないで考えられるようにしたい。

【めざす児童の姿】

- ・場面の移り変わりに注意しながら、登場人物のおかれた境遇や状況、気持ちの変化について、叙述をもとに想像して読むことができる。
- ・読み取ったことを受けて、本文を引用したり、場面をまとめたりしながら、感想を書くことができる。

3. 本時のねらい

「ふらふらする」「ふみしめて」「たった一つのかげぼうし」「きらきらわらいだしました」という言葉に着目することを通して、ちいちゃんの命が消えていったことに気づき、ひとりぼっちでかげおくりをするちいちゃんの様子や気持ちを読み取ることができる。

4. 本時の展開 (6 / 10)

	学習活動	個に応じた指導・援助 交流の形態 評価規準
つかむ	1. 本時の課題を確認する。 ひとりぼっちでかげおくりをするちいちゃんの様子や気持ちを読み取ろう。	A: サイドラインを引き、ちいちゃんの様子や気持ちが書いている児童に対して ・第一場面のかげおくりと比べて読み取っている児童を価値付ける。 ・「ちいちゃんに影が4つ見えたのはなぜか考えさせる。」 B: サイドラインや読み取りが不十分な児童に対して ・ちいちゃんの身体の調子を表す言葉に着目させ、とても弱っていることを読み取らせる。 ・ちいちゃんの会話文、行動、かげおくりの様子を表す言葉を提示し、読み深められるようにする。
考えをもつ	3. 読み取ったことを交流する。(全体交流) 「青い空からふってきました。」「体がすきとおって」「花畑」 ・ちいちゃんには、天国のお父さんとお母さんからの声が聞こえたように思えた。一場面のかげおくりとは違う。 ・いっしょにかげおくりをしたわけでない。 「ふらふらする」「ふみしめて」 ・ちいちゃんの体がどんどん弱っている。それでも、必死になってかげおくりをしようとしている。 「たった一つのかげぼうし」 ・家族に会いたくてたまらないという強い気持ちから、ちいちゃんにはかげが四つに見えた。 「きらきらわらいだしました」 ・ちいちゃんは死んでしまったけれど、幻の中で家族と会えてうれしい気持ちになった。	【深めの発問の意図】 「家族と会えてよかった。」という読みで終わらないようにする。戦争でちいちゃんが失ったものについて、前時までの学習とつなげて、考えを深められるようにする。
深める	【深めの発問】 ちいちゃんは最後に幻の中で家族に会えて、本当に幸せだったのでしょうか。 ・ちいちゃんは、お父さんやお母さん、お兄ちゃんや家、楽しい空も遊び場所もみんな失ってしまった。 ・戦争は、絶対にしてはいけない。平和な今の生活が幸せだ。	
まとめる	4. 本時のまとめをする。 一番心を打たれたところを中心に、その理由と戦争でちいちゃんが失ったものについて感想を書く。 ちいちゃんは、暑いような寒いような気がするほど、体が弱っていた。そんな時、夢の中で見たのは、家族みんなでやった楽しいかげおくりだったと思う。かげおくりをすればみんなに会えると思ったちいちゃんは、たった一つのかげぼうしを見ながら、家族四人を思っていた。とうとう、ちいちゃんの命が消えてしまった。とても悲しい。 夢の中で家族を見付けて、きらきら笑いながら走り出すちいちゃんは、幸せそうに見えるけど、ちいちゃんは、とうとう命まで失ってしまった。戦争は、絶対にしてはいけない。	全体交流 ちいちゃんの命が消えてしまったことや、幻の中で家族と会えたちいちゃんの気持ちを、一人一人がじっくり考え、全体で交流する中で読み取りを深められるようにする。 「ふらふらする」などの言葉を使って、最後の力を振り絞り、ひとりぼっちでかげおくりをするちいちゃんの様子や気持ちを読み取っている。 【発言・ノート】

第3学年国語科学習指導案

日 時:平成26年11月12日(水)

場 所:3年2組教室

授業者:牧村 拓

1. 単元名 物語の感想をまとめよう
教材名 『ちいちゃんのかげおくり』

2. 指導の立場

(1) 教材観

本教材は、「かげおくり」という遊びを取り上げながら、戦争の悲惨さや平和を願う作者の思いが込められた作品である。子どもたちは戦時中のつらく厳しい生活の様子を実際には知らないが、戦争を通して、主人公のちいちゃんの周りから大切な物が失われていくことをつかむことはできる。場面ごとにちいちゃんが失ったものを確認しながら、ちいちゃんの辛く心細い気持ちを読み取っていき、そこから戦争の悲惨さについて考えさせたい。また、戦争時の様子と、第五場面を比較することによって、平和の大切さについても考えさせたい。

本単元を通して、場面の移り変わりに注意しながら、人物の行動や情景、会話などの表現を基に読み取る力を身に付けさせたい。また、場面を短くまとめたり、文を引用したりして感想をまとめることができるようにしていきたい。そうすることで、人物や情景の描写などの表現の細かい点に注意しながら読めるようにしていくとともに、感想文を読み合い考え方や書き方の違いにも気付かせたい。

(2) 研究との関わり

【児童の実態】

- ・「きつつきの商売」「海をかつばせ」の学習を通して、登場人物の気持ちを想像して読み取ることができる児童が増えてきたが、会話文や情景描写などの読み取りの根拠がはっきりしておらず、根拠を尋ねても答えることのできない児童がいる。
- ・自分の意見を発表しようとする気持ちはたかまってきた。しかし、自分の意見にこだわっていて他の人の意見を聞いて考えを広げることのできない児童が多い。
- ・戦争に関するアンケートを行ったところ、18人の児童が戦争によって大勢の人の命が奪われたり、建物が壊されたりしたことを知っていた。また、戦争は国同士の利権争い、敵が攻めてきたらサイレンが鳴るなど、戦争の様子を詳しく答えた児童は4人いた。

研究内容1

- (1) 付けたい力を明確にし、単元を貫く言語活動を設定する。

付けたい力

- ・各場面の様子に気を付けながら、場面と場面を関係づけて読み取る力。
- ・根拠を明確にして、引用や要約を取り入れながら、感想をまとめる力。

単元を貫く言語活動の設定

- ・単元の出口に「一番心を打たれた場面を中心に、心を打たれた理由といっしょに感想文を書く」活動を位置づける。そのために、毎時間の読み取りの最後に「～から、ちいちゃんの～(様子や気持ち)がわかる。なぜかという、～」と、本文を引用してまとめながら、ちいちゃんがおかれた状況について感想を書く。戦争でちいちゃんが失ったものについて、前の場面と比較しながら考え、平和についても、思いを強くすることができるようにする。

研究内容2

- (1) 自分の考えを確かにもつための手立てを工夫する。

- ・着目する言葉を見付ける手がかりとして、「読み取りの視点」や「読み取りの技」を黒板に提示する。会話、行動描写、繰り返し、まわりの様子(情景描写)などの文章表現を視点として与えることで、「同じ言葉が繰り返されているから、強く思っている」などと考えられるようにしたい。
- ・三場面では、ただ家族の帰りを願って待つことしかできないちいちゃんの心細い気持ちを読み取るために、「やっとこらえて」「お母ちゃんとお兄ちゃんは、きっと帰ってくるよ」などの表現に着目させる。また、「食べました」から「かじりました」と表現が変わった部分にも着目させ、まともに食べることもできないほどちいちゃんの体力が限界に近付いてきていることを確実にとらえることで、次の場面でのちいちゃんの死をとらえられるようにしたい。

【めざす児童の姿】

- ・場面の移り変わりに注意しながら、登場人物のおかれた境遇や状況、気持ちの変化について、叙述をもとに想像して読むことができる。
- ・読み取ったことを受けて、本文を引用したり、場面をまとめたりしながら、感想を書くことができる。

3. 本時のねらい

情景描写からひとりぼっちのちいちゃんが置かれた悲惨な状況に気付き、お母さんやお兄ちゃんが、きつと帰ってくると願って待ち続けているちいちゃんの様子や気持ちを読み取ることができる。

4. 本時の展開 (5 / 10)

	学習活動	個に応じた指導・援助 交流の形態 評価規準
つかむ	1. 前時の学習を振り返る。 ・お母さんやお兄ちゃんとはぐれてしまい不安だった。しかしそれでも眠るぐらいに、逃げ回り続けてとても疲れていた。 2. 本時の課題を確認する。 防空壕で家族の帰りを待つちいちゃんの様子や気持ちを読み取ろう。	A: 家族の帰りを願って待っていると考えている児童に対して ・前の場面と今の場面をつなげて考えるよう声をかける。 ・「くもった空」「暗い夜」などの情景描写に表れているちいちゃんの気持ちを考えるように声をかける。 B: ちいちゃんがどんな気持ちで防空壕で待っているか分からない児童に対して ・ちいちゃんはどうして「深く」うなずいたのかと、問いかける。 ・ちいちゃんの行動や周りの様子を表す言葉を提示し、読み深められるようにする。
考えをもつ	3. 三場面を音読し、防空壕で家族の帰りを一人で待っているちいちゃんの気持ちが分かる言葉に線を引き、ちいちゃんの気持ちを読み取る。(一人読み) 4. 読み取ったことを交流する。(全体交流) 「やっとこらえて」 ・一人で心細く眠ってとてもつらかった。本当にお母さんたちを見つけることができるか心配。 「深くうなずきました」 ・お母さんたちは絶対にここに帰ってくると、信じている。 「また深くうなずきました」 ・繰り返しうなずいている。また一人になるのは心細いけど、お母さんたちはここに帰ってくるんだと強く信じている。 「きつと帰ってくるよ」 ・お母さんたちはここに帰ってくる。お願い早く帰ってきてと願っている。 「くもった朝」「暗い空」 ・いつになったらお母さんたちは帰ってくるのだろうと、心細い気持ちになっている。ちいちゃんの気持ちも暗くなっている。 「少し食べました」「少しかじりました」 ・一人で心細くて、食欲がわからない。まともに食べることができないほど、体力がなくなっている。 【深めの発問】 「少し食べました」から「少しかじりました」に変わったのは、どうしてだろう。 ・一人でずっとがまんしているから、疲れてしまって食べることができない。 ・まともに食べることができないほど、ちいちゃんは弱ってきている。	全体交流 ちいちゃんの願いや様子について、一人一人がじっくり考え、全体で交流する中で読み取りを深められるようにする。 【深めの発問の意図】 「少し食べました」と「少しかじりました」の表現の違いから、ちいちゃんが家族の帰りを願って待ちながらも、とても弱ってきていて、まともに食べることすら難しくなっていることに気付かせる。
深める		
まとめる	ちいちゃんはいよいよ、干し飯をまともに食べることができなくなってしまったほど、体が弱ってきてしまっている。そんな中、家族の帰りをただ願うことしかできなくて、とても辛かったと思う。 戦争のせいで、ちいちゃんは家や家族が奪われ、ちいちゃん自身もとても弱っている。小さな女の子にまでこんな辛い思いをさせるなんて、戦争は二度としてはいけないと思った。	母や兄がきつと帰ってくると願って、一人で待ち続けているちいちゃんの様子や気持ちを読み取っている。 【発言・ノート】

単元指導計画

【海をかつばせ】
場面ごとの人物の会話や行動、気持ちの移り変わりについて、叙述をもとに、想像して読むことができる。

<言葉見つけの視点>

- ・会話文
- ・様子を表す言葉

<読み取りの技>

- ・自分と比べて読む・動作化

【ちいちゃんのかげおくり】
場面の様子を比べ、移り変わりに注意しながら読むことができる。どんなできごとがあって、何が変わるのかを人物の行動、情景などの表現に着目して読むことができる。

【読（１）ウ・エ】

- 細かい点に注意しながら読み、場面をまとめたり、文を引用したりして感想を書くことができる。

【書（１）ウ・カ】

- 感想の内容や書き方を比較し、考えの明確さなどについて意見を伝え合うことができる。【伝国（１）イ（オ）】

<言葉見つけの視点>

- ・ダッシュ
- ・情景描写
- ・繰り返し表現
- ・たしざん言葉

<読み取りの技>

- ・音読
- ・場面をつなげて読む
- ・言葉をつなげて読む
- ・へんしん読み

【三年とうげ】
民話や物語の場面と組み立てをとらえ、人物の気持ちの変化や情景を想像することができる。

<言葉見つけの視点>

- ・心情表現、行動描写

<読み取りの技>

- ・場面をつなげて読む
- ・へんしん読み

次	時	ねらい	学習活動	着目する語句、表現	指導の手立て 評価規準
1次（見通しをもつ過程）	1	・題名から想像したことや、戦争について知っていることを交流することを通して、学習の見通しをもつことができる。	1 題名からどんな内容の話が想像することや、戦争について知っていることを話し合う。 2 全文を読み、難語句の意味調べをする。	☐ 当時と今の暮らしの違い ☐ 戦争	・戦争に関する本を紹介し、教材に関心をもてるようにする。 （並行読書） ちいちゃんの人物像や、かげおくり、戦争などについて想像しようとしている。 【発言・ノート】
	2	・初発の感想を話し合い、学習計画を立てることができる。	1 全文を読み、初発の感想を書く。 2 感想を交流し、学習課題をもち学習計画を立てる。 戦争で、ちいちゃんが失ったものは何でしょう。 平和について考えましょう。	☐ ちいちゃん ☐ かげおくり	・二つのかげおくりを比べながら、感想をもたせるようにする。 「ちいちゃんのかげおくり」の内容に興味をもち、進んで感想を書いている。 【発言・ノート】
2次（読み方を習得する過程）	3	・家族全員や兄妹でかげおくりをした楽しい空から、怖い空に変わったことに気付き、ちいちゃんの恐怖心や、父母の戦争に対する悲しく悔しい気持ちを読み取ることができる。	1 学習課題を確認する。 家族や兄妹でかげおくりをするちいちゃんの様子や気持ちを読み取ろう。 2 ちいちゃんの様子や気持ちが分かるところに線を引き、気持ちを読み取る。 （一人読み） 3 家族そろってかげおくりをするちいちゃんの様子や気持ちを交流する。 （全体交流） 【深めの発問】 かげおくりをするちいちゃんとお父さんやお母さんの気持ちは同じですか。 4 学習を振り返り、一番心を打たれたところを中心に感想を書く。 楽しいかげおくりは、いくさが激しくなってきた。町の空に爆弾を積んだ飛行機が飛んでくるようになって、ちいちゃんは、毎日怖かったと思う。お母さんは、ぽつんと言ったように、体の弱いお父さんまでどうして...と、くやしい気持ちだったと思う。 戦争で、ちいちゃんは楽しい空とお父さんを失った。戦争は怖いと思う。	☐ すごうい ☐ 記念写真 ☐ 楽しい所ではなく、とても怖い所にかわりました	・家族4人の会話文に着目させ、かげおくりを楽しんでいる様子や気持ちを想像させる。 ・「かげおくりなど～」の表現から、戦争の激化に伴って、敵の戦闘機が飛んできて、自分たちの命が脅かされていることに気付かせる。 ・三つの観点でまとめる。 一番心に残ったこと その理由 戦争で失ったもの ちいちゃんの恐怖心や、戦争に対する父母の悲しく悔しい気持ちを読み取っている。 【発言・ノート】

4	・空襲の中、必死で逃げるちいちゃんたちの様子に気付き、ちいちゃんの言動や情景描写から、家族とはぐれてしまったちいちゃんの不安でさびしい様子や気持ちを読み取ることができる。	1 学習課題を確認する。 家族とはぐれてしまったちいちゃんの様子や気持ちを読み取ろう。 2 ちいちゃんの気持ちが分かるところに線を引き、気持ちを読み取る。 (一人読み) 3 家族とはぐれてしまい不安なちいちゃんの様子や気持ちを交流する。(全体交流) 【深めの発問】 たくさんの人の中で眠るちいちゃんは、どんなことを思っていたでしょう。 4 学習を振り返り、心を打たれたことを中心に感想を書く。 炎の中を、3人で必死に逃げた様子を想像すると、とても怖い。お母さんだと思った人が知らない人だったなんて、私なら泣き叫んでいたと思う。暗い橋の下で、ひとりぼっちで眠るなんて心細くて寂しかっただろう。 ちいちゃんは、戦争で、お母さんお兄ちゃんまで失ってしまった。戦争は、家族を離ればなれにする。絶対にやってはいけない。	□お母ちゃん、お母ちゃん □さげびました □ひとりぼっち □たくさんの人たちの中でねむりました	・CDや掛図を活用し、戦火から必死で逃げ回るちいちゃんの様子や気持ちが想像しやすいようにする。 ・「お母ちゃん」に続く言葉を考えさせ、はぐれて不安な気持ちを読み取ることができるようにする。 ・三つの観点でまとめる。 お母さんたちとはぐれて不安な気持ちや、ひとりぼっちで眠る様子や気持ちを読み取っている。 【発言・ノート】
5 (本時三年二組)	・情景描写からひとりぼっちのちいちゃんが置かれた悲惨な状況に気付き、お母さんやお兄ちゃんが、きっと帰ってくると願って、一人で待ち続けているちいちゃんの様子や気持ちを読み取ることができる。	1 学習課題を確認する。 防空壕で家族の帰りを待つちいちゃんの様子や気持ちを読み取ろう。 2 ちいちゃんの気持ちが分かるところに線を引き、気持ちを読み取る。 (一人読み) 3 心細いが、家族はきっと帰ってくると信じて一人で待つちいちゃんの様子や気持ちを交流する。(全体交流) 【深めの発問】 「少し食べました」から「少しかじりました」に変わったのはどうしてだろう。 4 学習を振り返り、心に残ったことを中心に感想をまとめる。 ちいちゃんはいよいよ、干し飯をまともに食べることができなくなってしまうほど、体が弱ってきてしまっている。そんな中、家族の帰りをただ願うことしかできなくて、とても辛かったと思う。 戦争は、ちいちゃんから家族も家も奪い、ちいちゃんもとても弱っている。小さな女の子にまでこんな辛い思いをさせるなんて、戦争は二度としてはいけないと思った。	□なくのをやっこらえて □深くうなずきました □また深くうなずきました □少し食べました □きっと帰ってくるよ □少しかじりました	・「やけ落ちて」「暗い夜」などの情景描写と結びつけて、ちいちゃんの気持ちを読み取らせる。 ・繰り返し表現に着目させ、お母さんたちが帰ってくると強く信じているちいちゃんの気持ちを読み取らせる。 ・三つの観点でまとめる。 母や兄がきっと帰ってくると願って、一人で待ち続けているちいちゃんの様子や気持ちを読み取っている。 【発言・ノート】

6 (本時 三年一組)	・「ふらふらする」「ふみしめて」「たった一つのかげぼうし」「きらきらわらいだしました」という言葉に着目することを通して、ちいちゃんの命が消えてしまったことに気付き、一人ぼっちでかげおくりをするちいちゃんの様子や気持ちを読み取ることができる。	1 学習課題を確認する。 ひとりぼっちでかげおくりをするちいちゃんの様子や気持ちを読み取る。 2 ちいちゃんの様子や気持ちが分かるところに線を引き、気持ちを読み取る。 (一人読み) 3 たった一人でかげおくりをするちいちゃんの様子と気持ちを交流する。(全体交流) 【深めの発問】 ちいちゃんは、最後に幻の中でかげおくりができて、本当に幸せだったのか。 学習を振り返り、心に残ったことを中心に感想を書く。 ちいちゃんは、暑いような寒いような気がするほど、体が弱っていた。そんな時、夢の中で見たのは、家族みんなでやった楽しいかげおくりだったと思う。かげおくりをすればみんなに会えると思ったちいちゃんは、たった一つのかげぼうしを見ながら、かげおくりをしたんだと思う。とうとう、ちいちゃんの命が消えてしまった。とても悲しい。 夢の中で家族を見付けて、きらきら笑いながら走り出すちいちゃんは幸せそうに見えるけど、戦争はとうとうちいちゃんの命まで奪ってしまった。戦争は、絶対にしてはいけない。	□ 青い空からふってきました □ たった一つのかげぼうし □ 体がすうっとすきとおって □ ふらふらする足をふみしめて □ きらきらわらいだしました	・第1場面のかげおくりと対比させながら読み取らせる。 ・「ふらふらする足をふみしめ」ながらも、幻の中で家族と会えたちいちゃんの気持ちを読み取らせる。 ・ちいちゃんの死や平和についてまとめるようにする。 ・三つの観点でまとめる。 最後の力を振り絞り、ひとりぼっちでかげおくりをするちいちゃんの様子や気持ちを読み取っている。 【発言・ノート】
7	・第5場面と、ちいちゃんたちがいた時代を比較しながら、戦争の悲しさと平和な世界の素晴らしさに気付くことができる。	1 学習課題を確認する。 何十年後の、ちいちゃんがいらない公園の様子を読み取り、ちいちゃんの時代とくらべよう。 2 第5場面があるとないとではどう違うか考える。(一人読み) 3 戦争の時代と、戦争後の様子を比較することで、平和の素晴らしさについて考えることができる。(全体交流) 4 「戦争」「平和」という言葉を使って、感想を書く。 それから何十年もたち、ちいちゃんが最後にかげおくりをした所は、小さな公園になって、子供たちが楽しそうに遊んでいる。ちいちゃんも生きていれば、幸せで何でもできたはずだ。 戦争は、罪のない人々の幸せを奪い、ちいちゃんのような子供の未来も奪ってしまった。平和で皆が楽しく過ごせる幸せを大事にしたい。	□ いっぱい家がたっています □ 小さな公園になっています □ きらきらわらい声をあげて	・戦争中の暮らしと比べて読むことで、平和の大切さに気付かせる。 ・「きらきら」に着目させて読み取る。 ・三つの観点でまとめる。 戦争でちいちゃんが失ったものを考え、第5場面を書いた作者の思いをまとめている。 【発言・ノート】

3次（読み方を活用して読む過程）	8	・一番心を打たれた場面を中心に、心を打たれた理由とともに感想文を書くことができる。	1 全文を音読する。 一番心に残った場面について、本文の言葉を使って感想を書こう。 2 感想文の組み立てや「はじめ」「おわり」の書き方を知る。 3 「はじめ」の部分の感想を書く。		・「書き出しの例」「むすびの例」を示す。 ・感想文のモデルを示す。（本文の引用や要約、自分の経験を入れる。） 本文を引用して表現し、心を打たれた理由を挙げて書いている。 【感想文】
	9	・一番心を打たれた場面を中心に、心を打たれた理由とともに感想文を書くことができる。	1 引用、要約、自分の経験などを入れて書く書き方を知り、「中」の部分の感想を書く。 2 つながりを考えて「おわり」の部分の感想を書き、全文を読み返して推敲する。 3 感想文を清書する。		・「中」「おわり」のつながりを意識して、書くことができたか、ペアで評価しあう。 本文を引用したり、要約したりして感想文を書いている。 【感想文】
	10	・感想文発表会をし、友達との考え方の違いや書き方の違いに気付くことができる。	1 「ちいちゃんのかげおくり」の感想文を読み合う。 学級で感想を読み合い、友達の考えと自分の考えを比べよう。 2 友達と感想を交流し、考えの共通点や相違点、引用した言葉の違いを見つける。 3 メッセージカードに意見をまとめる。 4 できるだけ多くの感想文を交換して、読み合うことができるようにする。		・「はじめ」「中」「おわり」を意識しながら読むようにさせる。 ・メッセージカードには、自分が考えなかった、友達の考えのよさについて書くようにさせる。 友達と書き方や考えを比較し、自分の意見を伝えている。 【ワークシート】